

令和4年度 第1四半期 (4月~6月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

全産業業況 DI 値は前回調査から 13.2 ポイント改善、
令和3年度第1四半期からは 11.2 ポイント悪化

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲17.5 (前期比+13.2 前年同期比▲11.2)、来期見通し (7月~9月) については▲19.1 (当期比▲1.6) となった。

新型コロナウイルスの感染状況が比較的落ち着いてきたこともあり、運輸業を除く業種で DI 値が前期比プラスとなった。しかし、依然として不安定な国際情勢や資材不足、原材料費の高騰等による売上の伸び悩みを懸念する声、業況の低迷を不安視する声が多く聞かれた。

設備投資については、「実施した」との回答が 33.2 (前期比▲2.2、前年同期比▲0.7)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 34.7 (当期比+1.5) となった。

■製造業

業況 DI 値は▲12.2 (前期比+10.2、前年同期比▲20.7)、来期の見通しについては▲16.0 (当期比▲3.8) となった。

一般的に需要は堅調との声が聞かれる一方で、自動車関連業ではメーカーの工場の稼働停止や減産に伴う売上減少が見られる。また、原材料価格の高騰やロシア・ウクライナ情勢など不安定な海外情勢、半導体の納期遅れ等サプライチェーン問題の長期化により先行きが不透明との声が多く聞かれた。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「需要の停滞」、「原材料・人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

■建設業

業況 DI 値は▲33.3 (前期比+4.2、前年同期比▲21.3)、来期の見通しについては▲33.3 (当期比±0) となった。

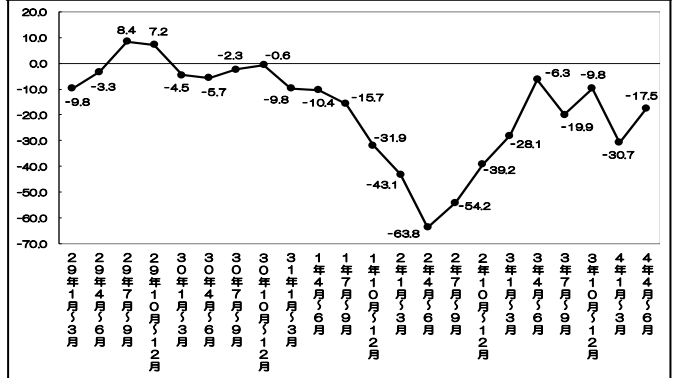
官公庁需要が少しずつ動き出したとの声が聞かれる一方、依然民間需要は停滞。一般的に建築資材高騰のため利益減が見られる他、ウッドショック、国際情勢等による物価上昇で業況は悪化しており、来期についても資機材の価格上昇、納期遅れ、顧客の消費マインドの低下等を引き続き不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「官公庁需要の停滞」、「民間需要の停滞」が主に挙げられる。

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：201社
- 調査期間
令和4年4月~6月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 82・建設業 34・卸売業 20
小売業 22・運輸業 12・サービス業 31

全業種



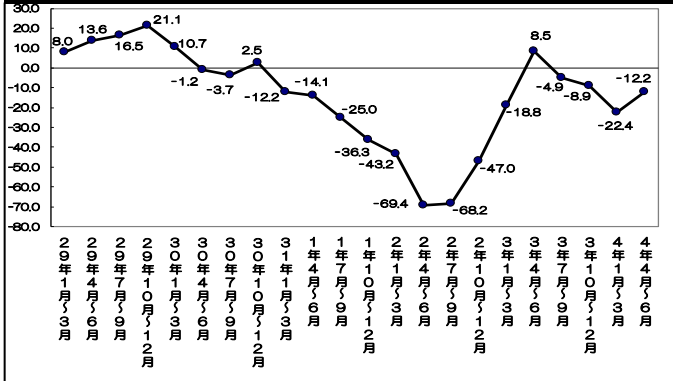
【A】前年同期 (令和3年4月~6月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	
19.7%	43.0%	37.2%	▲17.5	↑

【B】来期 (令和4年7月~9月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	
15.9%	49.1%	35.0%	▲19.1	↓

製造業



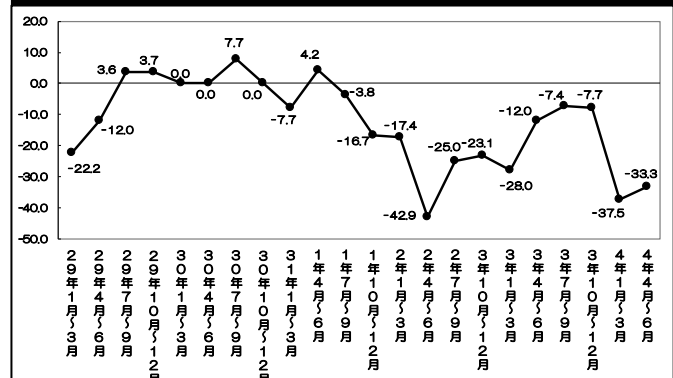
【前年同期比】令和3年4~6月

自社の業況 ▲12.2 ↓

【来期見通し】令和4年7~9月

自社の業況 ▲16.0 ↓

建設業



【前年同期比】令和3年4~6月

自社の業況 ▲33.3 ↑

【来期見通し】令和4年7~9月

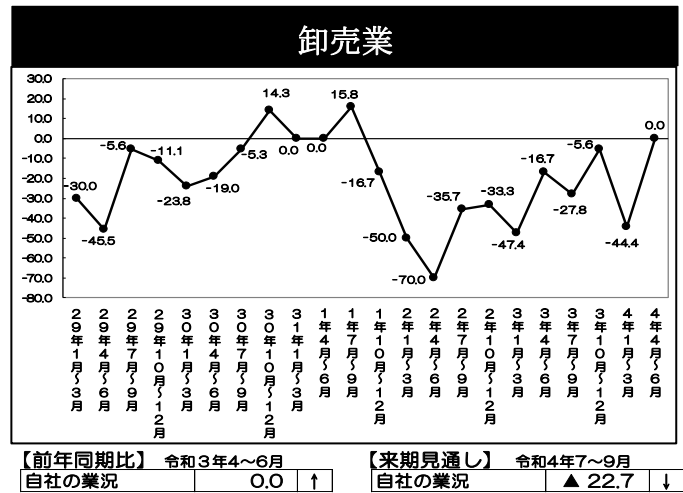
自社の業況 ▲33.3 →

■卸売業

業況 DI 値は 0.0（前期比+44.4、前年同期比+16.7）、来期の見通しについては▲22.7（当期比▲22.7）となった。

食品関連業では、GW 前後の売上に支えられたとの声が聞かれる一方、仕入単価や、包装材輸送コストの上昇により利益確保が困難との声が聞かれた。先行きの見通しでは値上げによる消費者の買い控えを不安視する声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。

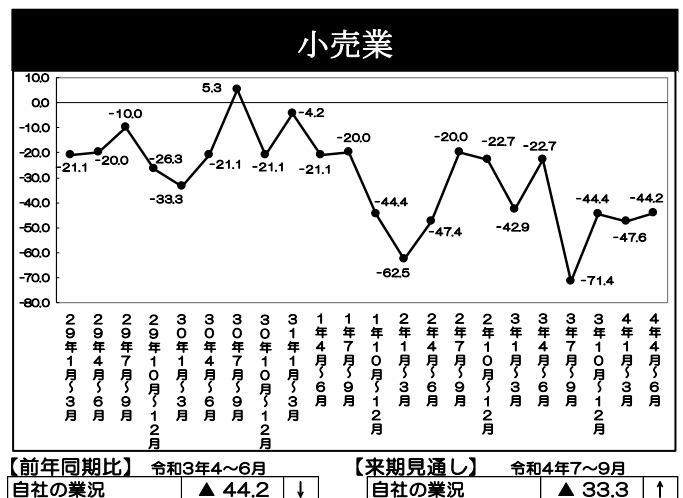


■小売業

業況 DI 値は▲44.2（前期比+3.4、前年同期比▲21.5）、来期の見通しについては▲33.3（当期比+10.9）となった。

一般的に客数の減少や仕入れ価格の高騰を懸念する声が聞かれる。自動車販売業では半導体不足に伴う納期の遅れで売上が伸び悩んでいる他、食品関連業ではメーカーの値上げに売価が追い付かず、利益確保が困難との声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「需要の停滞」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」が主に挙げられる。

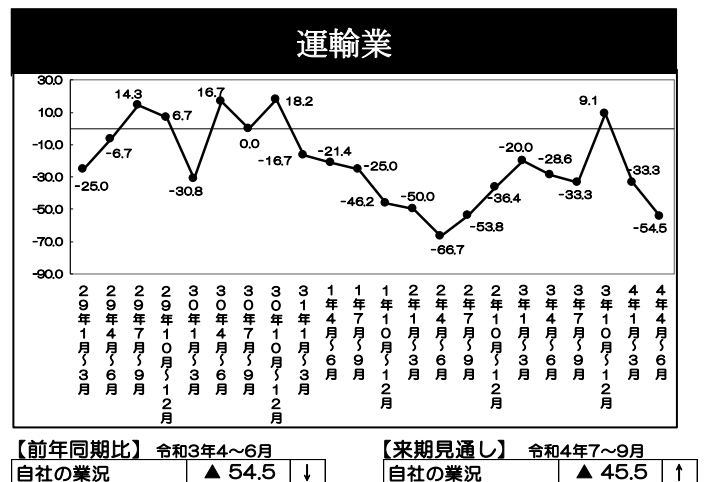


■運輸業

業況 DI 値は▲54.5（前期比▲21.2、前年同期比▲25.9）、来期の見通しについては▲45.5（当期比+9.0）となった。

半導体不足や工場の稼働停止が物流量の減少に影響を与えているとの声が聞かれる。また、売上が増えても燃料高、賃上げ等の経費の増加により採算が悪化しており、来期についても先行きは不透明との声が聞かれた。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「運送単価の低下・上昇難」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。



■サービス業

業況 DI 値は+21.9（前期比+38.6、前年同期比+52.7）、来期の見通しについては+19.4（当期比▲2.5）となった。

コロナ感染状況が落ち着きつつあり、飲食業、イベント関連業ではコロナ禍に比べて売上は回復傾向にある。一方で、警備業をはじめ全般的に人手不足や仕入れ価格の高騰などによる利益確保難、先行き不安の声が聞かれる。

経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「需要の停滞」、「人件費の増加」が主に挙げられる。

